

## トランプ政権は、麻薬取締りを口実とした、ベネズエラ、コロンビアへの軍事侵攻を行ってはならない

ベネズエラの主権を擁護する有識者の会

2025 年 10 月 27 日

トランプ政権が、8 月下旬、南カリブ海に麻薬取締を口実に、攻撃型原子力潜水艦、トマホーク 1,200 発を持つミサイル発射巡洋艦、駆逐艦、上陸用舟艇など 8 隻の艦船、最新鋭戦闘機 F35 などの航空機、2,200 名の海兵隊員を含む 4,500 名の兵員（現在では 10,000 人）という大規模な軍事力を配備して 2 カ月が経過した。

この 2 カ月の間に、米軍は、ベネズエラあるいはコロンビアの小型船、10 隻を公海あるいはそれぞれの国の領海内で、攻撃、撃沈し、本日までに 43 人を殺害した。いずれの攻撃においても、船舶の拿捕、麻薬の押収、乗組員の拘束という手段はとられておらず、麻薬運搬の証拠は提示されていない。こうした国際法、国連憲章に違反する超法規的殺害は、米国内でも、国際的にも厳しく批判されている。

9 月下旬には、米軍が数週間以内に、ベネズエラ領内に侵攻し、マドゥーロ合法政権の体制転換を図ることが決定された。そして、10 月 11 日には、マルコ・ルピオ国務長官の強力な後押しにより、ベネズエラの極右の反政府派、マリア・コリーナ・マチャードへのノーベル平和賞の授与を実現し、ベネズエラ国内から米国の軍事介入を要請させ、米軍の侵攻を受け入れる情勢を作り上げようとしている。

10 月 15 日には、トランプ大統領は、ベネズエラにおける CIA の秘密作戦の遂行を承認し、一層の軍事力の実行への道を開いた。こうしたシナリオに従い、10 月 25 日、国防総省は、最新鋭の原子力空母ジェラルド・R・フォード（75 機の航空機を積載）、3 隻の駆逐艦、1 隻の補給艦、1 隻ドライ貨物船、1 隻の沿岸警備隊艦艇を新たに配備することを決定した。原子力空母だけでも、4,600 人の兵員を運搬するので、この地域に 2 万人近い兵員が展開することになる。こうした過度の軍事力は、豊富な石油資源の獲得のために、

社会主義の支持を公言するベネズエラのマドゥーロ政権、コロンビアのペトロ政権を力で打倒しようというものに他ならない。

ベネズエラ国内では、いろいろな世論調査でも、80%以上の国民が米国の侵攻に反対し、それと戦う意思を示している。海外でも、国連加盟国 120 カ国が参加する 非同盟諸国運動は米国に対し、カリブ海における無責任な行動を中止するよう求める決議を採択している。米国内も無法な軍事力の行使に批判が高まっている。

トランプ政権は、ベネズエラ・コロンビア両国の主権と自決権を厳に尊重しなければならない。私たち「ベネズエラの主権を擁護する有識者の会」は、国連事務総長および日本政府に以上のことを強く求めます。

世話人一同

大西広

勝俣誠

桜井均

新藤通弘

西谷修

六本木栄二

山崎圭一

吉原功